

# 御浜町防災マップ



この防災マップは、津波や土砂災害の危険区域と避難場所、防災の心得などを示すことにより、住民の皆さんの防災対策と災害時の避難に役立てていただくことを目的に作成しました。いざという時に備え、日頃から危険区域や避難場所を確認し、家族の連絡先などを書き込んでおきましょう。なお、地震の規模や土地利用の変化などにより、地図に示した区域以外の場所でも、場合によっては、浸水被害や土砂災害が発生する可能性もありますので注意してください。

平成 22 年 3 月 御浜町長

## 津波災害に備える

**地震だ！ 津波だ！ すぐ避難！**  
津波から身を守るにはまず逃げるのが重要です。地域によっては短時間で津波がやってきます。津波に対する正しい知識を持ち行動しましょう。

**○津波の速さはジェット機を超える**  
津波が伝わる速さは海が深いほど速く、津波が太平洋を伝わる速さは、ジェット機以上にもなります。陸を駆け上がる速さも、大人の全力疾走以上なので、津波が見えてからではとても逃げ切れません。大きい揺れを感じたら、情報を待たずにすぐ高台に避難することが何よりも大切です。

**○津波の高さは想像を超える**  
津波の高さは海岸の地形などに大きく左右されます。沿岸での津波の高さが1メートルでも、津波はその数倍から場合によっては10倍程度の高さになり大きな被害を出すこともあります。特にV字状の湾、岬付近、河川沿いなどは高くなりやすく、大変危険です。

**○引き潮がなくても津波は襲ってくる**  
津波が海岸に到達する前に、引き潮（海面が下がる現象）が必ずあるとは限りません。地震の起こり方などによっては、引き潮が起こらないこともあります。揺れを感じたら、いち早く安全な場所に避難し、ラジオなどから発表される津波情報に十分注意するようにしましょう。

**○津波は繰り返し襲ってくる**  
津波は2回、3回と繰り返し襲ってきます。しかも、第1波の高さが最大となるとは限りません。津波警報、注意報が解除されるまで、海岸には絶対に近づかないようにしましょう。

三重県 防災危機管理部 地震対策室 より

## 地震に備える

地震が発生した時に被害を最小限に抑えるには、一人ひとりがあわてず騒がず適切な行動をとることが大切です。そのために、地震について知っておきましょう。

**◆ 震度とマグニチュード**  
地震の規模はマグニチュード（M）で表されます。これは地震として発生した波のエネルギーの量を表す単位で、マグニチュードが1.0 上がればエネルギーは約 30 倍になります。また、震度とは、ある地点で感じる揺れの強さを数字で示したものです。マグニチュードが大きくても震源から離れていれば、震度は小さくなります。

震度 0	人は揺れを感じない。	震度 5 弱	多くの人が、身の安全を図ろうとする。一部の人は行動に支障を感じる。
震度 1	屋内にいる人の一部が、わずかな揺れを感じる。	震度 5 強	非常な恐怖を感じる。多くの人は行動に支障を感じる。
震度 2	屋内にいる人の多くが揺れを感じる。眠っている人の一部が目覚ます。	震度 6 弱	立っていることが困難になる。
震度 3	屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる。恐怖感を感じる人もいます。	震度 6 強	立っていることができず、はわないと動くことができない。
震度 4	かなりの恐怖感があり、一部の人は身の安全を図ろうとする。眠っている人のほとんどが目覚ます。	震度 7	揺れにほんろうされ、自分の意思で行動できない。

**◆ 東海・東南海・南海地震**  
東海、東南海、南海、3つの地震を合わせて、地震3兄弟とも言われています。3地震が同時発生するとマグニチュード8クラスの巨大地震となり、広い範囲で強い揺れと、津波での大きな被害も起きると想定されています。これら3つの地震は下の図のように、50年から150年のサイクルで起こっています。その中で東海地震だけが、150年近く経ってもまだ起きていないのです。いつかの地震が起きてもおもしろくありません。そうした場合、どれか1つの地震によって他地震までもが運動して起きる危険性があります。

太平洋岸で起こった過去の大地震と想定震源域

## 避難の心得

**① 家族で開く防災会議**  
災害はいつ起こるか分かりません。いざというときに困らないよう、家族みんなで災害時の役割分担を決めたり、避難場所の確認など話しておきましょう。

**② 避難の呼びかけに注意を**  
危険が迫ったときは、テレビ、ラジオの気象情報、役場からの避難情報に注意しましょう。広報車や防災無線からの案内は、雨風の音で聞こえにくい場合がありますので注意しましょう。

**③ 津波に注意**  
危険を感じたら、すぐに海岸を離れ、より高いところや津波避難場所に避難しましょう。

**④ 夜間の避難は注意を**  
夜間、雨の中を歩ける速度は1時間で1.5km～2.0kmが目安です。このため、お年寄りや小さなお子さん、身体の不自由な方などがいらっしゃるご家庭では、特に早めの避難が必要です。隣近所で助け合って避難しましょう。

**⑤ 土砂災害にも注意**  
山地の近くの住宅では、土砂災害にも注意しましょう。避難のとき、山沿いの道路を歩かなければならないときも注意しましょう。

**⑥ 車での避難は控えて**  
車での避難は交通渋滞を招いたり、道路陥没などで動けなくなったりして緊急車両の妨げとなります。原則として、徒歩で避難しましょう。

**◆ NIT 災害用伝言ダイヤル（171）**  
家族間や知人間の連絡に活用できます。安否の確認などに役立ててください。「171」をダイヤルし、利用ガイダンスにしたがって伝言の録音・再生を行ってください。

伝言の録音・再生の方法（録音時間/1伝言 30秒以内）

伝言の録音方法 171 ⇒ 1 ⇒ 録音

伝言の再生方法 171 ⇒ 2 ⇒ 再生

## 防災メモ

**◆ 緊急時の連絡先**

緊急連絡先	局番：05979	連絡先	電話番号
御浜町役場	3-0505	紀南病院	2-1333
熊野市消防署御浜分署	2-4731	紀宝警察署	0735-33-0110

**◆ 緊急災害用伝言板サービス**  
メッセージをご登録される場合  
携帯電話・PHS・パソコン等をご利用してご自分の安否情報等を「無事です」「被害があります」「自宅に居ます」「避難所にいます」などのメッセージの中から選択し、ご登録いただくことができます。  
メッセージをご確認される場合  
安否情報を確認されたい方の携帯電話番号を入力することで、登録されたメッセージをご確認いただくことができます。

**◆ インターネット**  
三重県の防災ホームページ（防災みえ.jp） http://www.bosaimie.jp  
御浜町のホームページ http://www.town.mihama.mie.jp

**◆ この防災マップについて**  
御浜町防災マップに関するお問合せは 御浜町役場 総務課 電話 3-0505 まで

## 土砂災害に備える

**◆ 雨が降り続いた場合、土砂災害に要注意！！**  
雨が降り続いた場合は、地盤がゆるんだりして土砂災害の発生する可能性が高くなります。土砂災害には主に、がけ崩れ災害、地すべり災害、土石流災害があります。

**◆ がけ崩れ**  
豪雨、または地震により地盤がゆるみ、突然崩れ落ちる現象を「がけ崩れ」と言います。崩れた土砂は斜面の高さの2～3倍にあたる距離まで届くこともあります。がけ崩れの危険のある場所は、全国で330,156箇所（平成14年度国土交通省公表値）と、他の土砂災害危険箇所数に比べて多いのが特徴です。

**◆ 地すべり**  
地すべりとは、緩やかな斜面の場所で、粘土のような滑りやすい地層に雨水などがしみ込み、その影響で地面が動き出す現象です。広い範囲にわたって起こるのが特徴で、家や田畑、道路などの交通網などが一度に被害を受けてしまいます。地すべりは、1日に数ミリ程度と目に見えないほどの動きですが、突然スズルと数メートルも動くことがあります。また、地すべりによってせき止められた川の水が決壊すると、下流に大災害をもたらすこともあります。

**◆ 土石流**  
谷や山の斜面から崩れた土や石などが、梅雨の長雨や台風の大雨などによる水と一緒に、一気に流れ出てくる現象が土石流です。「土石流災害」は、流れの急な川があるところや扇状地で起こることが多く、速いスピードと強い力で被害をもたらします。

**◆ 土砂災害の前兆現象**

がけ崩れの前兆現象	地すべりの前兆現象	土石流の前兆現象
<ul style="list-style-type: none"> <li>がけから小石がバラバラと落ちてくるようになった時</li> <li>がけから水が湧き出てきた時</li> <li>がけに割れ目が増えてきた時</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>井戸の水が濁った時</li> <li>地面がひび割れたり、一部が陥没あるいは隆起した時</li> <li>池や沼の水の量が急激に変化した時</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「山鳴り」といって、山全体がうなるような音がする時</li> <li>川の流れが濁ったり、流木が混じっている時</li> <li>雨が降り続けているのに、川の水が減っている時</li> </ul>

「三重県 防災みえ.jp もしもの時に」より

## 地震時の心得10ヶ条

**◆ もし災害が起こったら、あなたはどうする！**

- まず、わが身の安全を守れ！**  
なによりも大切な命。地震が起きたらまず第一に身の安全を確保しましょう。
- 火の始末は、ちょっと待った！**  
ゆれが激しい時は危険です。ゆれがおさまってから、あわてず無理せず確実に火の始末をしましょう。
- 火が出たら、まず消火を！**  
「火事だ！」と大声で呼び、隣近所にも協力を求める初期消火に努めましょう。
- 非常脱出口を確保する。**  
特に鉄筋コンクリートの建物内にいるときは、間違ったまま建物にしがみつき、出入口が開かなくなることがあります。
- 外に逃げるときはあわてずに！**  
外に逃げるときは、互やガラスなどの落下物に注意し、落ちないように行動しましょう。
- 狭い路地、壁ぎわ、がけや川べりに近寄らない。**  
ブロック塀・門柱・自動販売機などは倒れやすいので注意。
- 山崩れ、がけ崩れ、津波に注意する。**  
山間部や海岸地帯で地震を感じたら、すぐに避難を開始する。
- 避難は徒歩で荷物は最小限にする。**  
指定された避難場所に徒歩で避難を。原則として車は使わないようにしましょう。
- みんなで協力し合って応急救護！**  
お年寄りや身体の不自由な人、けが人などに声をかけ、みんなで助け合いましょ。
- 正しい情報をつかみましょう。**  
うわさやデマに惑わされず、テレビやラジオなどの正しい情報を。

## 日頃の心構え

**◆ 非常持ち出し品・備蓄品**  
災害発生時など非常時に持ち出す物を家族構成にあわせて、必要最小限に絞り込みティバックなどに入れ、一度背負ってみましょう。男性は15kg、女性は10kgくらいで、両手を自由に動かすことができるか確認してみましょう。また、被災後の生活を支えるために、1人あたり3日分をゆめやすとして食料、水、生活用品などの備蓄品を準備しましょう。水は1人あたり1日に3リットルを目安に、長期間保存可能な水在家族構成に合わせて用意しておきましょう。

**◆ リスト**

生活用品	<ul style="list-style-type: none"> <li>携帯ラジオ</li> <li>カセットコンロ（燃料）</li> <li>ひも</li> <li>石けん</li> <li>バケツ</li> <li>軍手</li> <li>（ウエット）ティッシュ</li> <li>現金</li> <li>印鑑</li> <li>家・車のキー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ライター</li> <li>懐中電灯（予備の乾電池）</li> <li>フード付雨カッパ</li> <li>万能ナイフ</li> <li>生理用品</li> <li>レジャーシート</li> <li>ろうそく</li> <li>保険証</li> <li>免許証</li> <li>懐中電灯（予備の乾電池）</li> <li>カップ麺</li> <li>包帯</li> <li>ばんそうこう</li> <li>胃腸薬</li> <li>着替え用肌着</li> <li>着替え用衣類・靴下</li> <li>毛布</li> <li>紙おむつ</li> <li>おんぶ帯</li> <li>ほ乳びん</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞紙</li> <li>洗面用具</li> <li>裁縫道具</li> <li>布ガムテープ</li> <li>タオル</li> <li>紙食器</li> <li>くつ・スリッパ</li> <li>預貯金通帳</li> <li>各種カード</li> <li>レトルト食品</li> <li>かぜ薬</li> <li>常備薬</li> <li>帽子</li> <li>肌着などの衣類</li> </ul>
------	---	--	---

※ 非常用備品は三日分を目安に用意しておきましょう。

**◆ 日頃の点検準備**

- 非常持出品はリュックに入れてありますか
- 出入口付近に転倒・落下の危険性のあるものなど置いていませんか
- 応急手当の方法を知っていますか
- 避難場所に行ったことがありますか
- 家族で防災について話し合いをしていますか
- 地域の防災訓練に参加したことがありますか
- 被災したときに避難できる知人・友人はいますか
- 日頃から隣近所とのコミュニケーションはとっていますか
- お風呂に水をためていますか